

変わりゆく時代と ミヤギノ



同窓会会長
堀 清志

宮城野同窓生の皆さん、
こんにちは。この二年ほどですつかり東京でのリーマン生活にも慣れました。同窓会業務は在仙の方々に任せているのですが、昨年は一同窓生として思うところの多い一年でした。

昨年はまさに世界が激動の一年にありました。リーマンブラザーズ破綻をきっかけとする世界金融恐慌が起こり、日本でも景気悪化による派遣切りやリストラが社会問題になっています。同窓生の皆さんの中にも大きな影響を受けた方がいるかもしれないと思います。心配していた次第です。かく言う私も金融系のSEという職種

上、関心を持ってニュースを見ていました。もつとも、自身は特にこれといって影響を受けたという実感はありません。金融業界を発端とする景気悪化にも関わらず、間接的ではあれ金融に携わる私が影響を受けず、製造業等で雇用問題が発生するのは皮肉な事象ではありません。



今回の事態を受けて宮城野生の進路設計に対する考

えも変わってしまうのでしょうか。宮城野生はその校風や美術科の存在等ゆえか、他の一般的な高校の生徒に比べて「夢」が進路設計の大きな要素になっているような気がします。それが変わってしまうとすれば、同窓生にとつて悲しいことかもしれません。巣立った人々は自分が育った巣がいつまでも変わらぬことを願うと思うからです。もちろん、自分の人生を

スクール・ アイデンティティ



校長
佐藤東志夫

「宮城野って何？」と聞かれて、「宮城野はこのような学校です！」と明快に答えられるだろうか？意外と答えは難しいかもしれません。「校則とか部活がなくて、生徒の自由な活動を通して自主的に学べる新しいタイプの学校」というのが個人のイメージです。そのような学園生活の実態が一般県民に正確に伝わっているか？というと、実際は私達が思っているほど伝わっていないような気がします。

22年度から全県一学区制になります。共学化も進みます。他校も強烈に特色化を打ち出し、魅力ある学校をアピールしてきます。このまま座視していると宮城野のユニークさと魅力が色あせる恐れがあります。宮城野も負けてはいられません。教員、生徒、保護者、同窓生を巻き込んで、この危機

感を共有しなければならぬ時代だと思います。そして、まずまず宮城野を魅力ある高校にすることが私達に課せられた使命ではないでしょうか。

同窓会の皆様からも様々な意見を頂戴したいと思えます。ご協力をお願いします。しかし、なんと云ってもスクール・アイデンティティ、学校というもののイメージで最も大切な部分は、卒業生の実社会での活躍振りではないでしょうか。宮城野で三年間を過ごした者が大きく羽ばたいている姿が、何よりも宮城野を語り、アピールしていく重要なポイントです。宮城野の卒業生に期待します。さらに大きく羽ばたいて、在校生にその姿を見せて下さい。

在校生が憧れる光り輝く先輩の活躍。「ああやはり宮城野高校の卒業生は凄い。私たちもこの高校で学べることに誇りだ」と思えるような先輩になってほしい。それが同窓会ではないかと思えます。先輩の皆さんの活躍に期待します。

ノーベル物理学賞受賞

小柴昌俊先生講演会

『大きいことと小さいこと』



小柴昌俊先生

(1926年9月19日生まれ)

ノーベル物理学賞受賞

東京大学特別荣誉教授

平成基礎科学財団理事長

平成20年11月14日、小柴昌俊先生が宮城野高校体育館にて、講演会を行いました。在校生だけでなく、教職員の方々また卒業生や保護者の方々の姿が見える中、ノーベル賞受賞に至るまでの道のりをお伺いすることができました。

「我々人間が本当に幸運の塊みたいにしてここにいる。あなた方、自分でいろいろなことを試してみても、これができたらいいな。これ俺解きたいな」という将来達成したい卵をね、是非二つか三つ、抱えているといいですよ。」親しみと深みを持った先生の言葉は会場の多くの人の心をとらえたのではないのでしょうか。

小柴先生に聞きたい!

Q ノーベル物理学賞の報道を受けた時、先生はどういうお気持ちでしたか。

A 超新星ニュートリノを観測したのは昭和62年の春なんです。翌年88年に先輩の江崎玲於奈先生が新聞記者に「今年はずぶん小柴さんじゃないかな」と話したらしい。そういうことがあって、88年には50人の新聞記者やテレビの記者が来た。僕は



びつくりしちゃって、こっちは頼んだわけじゃないけど来てくれたのだから何かもてなさないといけないと思い、寿司屋に30人前注文した。そしたらお寿司が届く前にニュースがあって、他の人に決まったという報道があった(笑)。それから毎年その時期になると20〜30人の記者が来る。それがずっと長いこと続いて平成14年まで。記者も慣れて「今年はどうですかね」とお茶を飲んでいました。家内が電話を受けて「お父さん、ストックホルムから」と。電話を代わって審査委員長から英語で「今年の賞は小柴さんに決まりました。」と僕は「サンキューベリーマッチ」と言うと記者が騒ぎ出して、それから忙しくなつて生活がすっかり変わっちゃった。

Q 先生の高校時代について、

どんな学生で、またその時、夢はありましたか。
A あのね。私の高校時代つてね。あなた方と違って。旧制つて制度が違うわけ。私たちの時の高等学校つていうのは中学を2年やつて後で入る高校。だから、今の言葉で言えばね。高校3年つていうのは大学の2年生までの期間を言う。それが私の高校時代。その時、色々ありました。私はドイツのね。歌曲、ドイツ特有の歌曲「リート」というのがあるんですけど、それ聞いてそれに夢中になつちゃった。それに惹かれてドイツ文学やろうかなつて。(笑)

質問は会場の生徒により行われたものです。小柴先生の講演の詳細に関しては、同封の講演記録をご覧ください。





古谷隆男先生



かつての先生と教え子が授業を通じて再会するとう、同期会が昨年本校にて行われました。時代を超えて結びついた先生と生徒達の様子をお伝えします。

平成20年6月1日、記念すべき日がついに訪れた。古谷隆男先生の記念授業の日である。古谷先生は進路指導部長として宮城野高校を一年目から支えていらつしゃった。大学入試や進路指導、放課後活動などでお世話になった卒業生がたくさんいるのではないだろうか。古谷先生が残された功績は計り知れない。

平成20年3月に宮城県岩が先高校を最後に定年退職されたことを記念して、今回の記念授業を行った。この発端は、古谷先生の一言だった。古谷先生に個人的に連絡をとったときに「最後に授業ができたらいんだけどなあ…」つぶやきだったのだ。私はそれを聞いて、お世話になった古谷先生に恩返しをするという意味も込めて、古谷先生の願いを叶えたいと思った。

場所は、絶対に宮城野高校がいい。あの思い出の場所が、また古谷先生の授業が受けられる。考えただけでもわくわくした。それから、進路指導でお世話になった私の仲間内でも「古谷先生の授業をもう一度受けたい。」という話が何度か出ていた。つまり先生の想いと卒業生の思いが一致していた、ということになる。これはすごいことではないだろうか。これほどまでに、古谷先生が私たち卒業生に



与えていた影響は大きかったのだ。

当日集まった人の数は88名、当初は40名集まればばいいかなと思っていたが、倍の人数がそろった。しかも、東京や千葉、神奈川などの関東圏や京都、奈良の関西圏からこの日のためにはるばる来てくれた人もいた。

「古谷隆男先生」の名前の力を感した。場所は大講義室。かつて、私たちが放課後活動で古谷先生の授業を聞いた場所だ。大講義室は満員で、かつての宮城野高校生たちの活気で溢れていた。まるで、みんながこの日だけ宮城野高生に戻っていたかのようだった。

待ちに待った、古谷先生の登場。歓声があがる。古谷先生はユーモアを交えながら、「私が一番きれいだったとき」の詩や、語感が持つイメージ、コミュニケーションの大切さなどを話してくださいました。私が心に残っているのは、「28歳のハローワーク」人生を力強く生き抜くために」と題して話してくださいましたことである。今ある自分をあ

るがまま受け入れること、「心のシールド(盾)」を作る大切さ、そしてくじけそうになったときは「心の止まり木」を見つける、ということ。「心の止まり木」とはつまり、自分の心が休まる空間や時間のことである。家庭であったり、友達、文学、音楽、美術館、ほんやりする時間であったりする。

私はちようど仕事や人間関係で疲れていた時、だったので、古谷先生の言葉が胸に響いた。涙が出てきた。とてもいい時に大事な話が聞けた。これから人生を歩んでいく上で糧となるだろうと思った。

古谷先生の「シールド」は「人持ち」となることだそう。古谷先生は今回の授業で、自ら「人持ち」であることを証明してみせた。すごいことである。



文・1 回生吉岡めぐみさん

第5回 同窓会・総会

宮城野高校同窓会総会もこれで五回目を数えました。平成20年9月6日、宮城野高校会議室にて行われた総会では、会則の変更点や予算報告など活発な話し合いが行われました。

仙台在住の同窓会役員の方々に加え、県外から駆けつけてくれた同窓生の皆さんが立派な総会を作り上げていました。PTAの方や先生方からの刺激を受けつつ、これからの円滑な同窓会運営に向けた有意義な話し合いとなったのではないのでしょうか。

その後は食堂で懇親会が行われました。今回はおいしいスイーツに加え、iPadなど豪華商品があったるビンゴ大会も開催という大盤振る舞い。年齢や学年を超え、皆さん楽しいひと時を過ごしていたようです。若い世代を中心に運営される同窓会も、着実に回数を重ねています。これからもしっかりと受け継がれていってほしいものです。



総会は宮城野の同窓生を中心に運営されています。議長中心で会議が進行していきます。



総会は、校長先生と同窓生が意見を交わす貴重な場でもあります。



懇親会の様子です。



先生方やPTAの方など顔触れは様々です。懇親会では世代を問わない交流が見られます。

同窓会の活動を知る機会として、私たちは隔年で総会を開催しています。総会では、同窓会活動の報告や今後の同窓会の在り方について話し合いが行われます。同日には各回生や先生との交流の場を提供する懇親会も行われます。同窓生同士での歓談や懐かしい先生方との再会の場としてご利用いただくなど、諸活動の糸口となればうれしい限りです。

次回は平成22年の夏から秋にかけての開催を予定しています。同窓会会報などを通じて、詳細を呼び掛けていきますので、今後の同窓会のお知らせにご注意ください。是非一度足をお運び頂き、同窓会についての理解を深めて頂ければと思います。



「自由」について

～会報「たんぽぽ」第11号の記事を読んで～

6 回生 上山 愛子 さん

今回のたんぽぽ編集に当たって、ある同窓生の方からご連絡を頂きました。過去のたんぽぽの記事に関して思うところがあり、それに呼応する形で近況報告をお送り頂きました。勉強に勤しむ在校生の皆様の励みになれば、ということをごくに掲載いたします。

はじめまして。もしくはお久しぶりです。6 回生の上山愛子です。前回の「たんぽぽ」、みなさんはどうご覧になったでしょうか。先生方がそれぞれ「自由」についてお話されていました。私は大学学部生の 4 年間はダンスを通して、現在の大学院生活では哲学・倫理学を通して、自由と向き合っています。というわけで、前回の「たんぽぽ」をとっても興味深く読みました。今日は三宅先生が書かれた調和の美のお話と、自由についての私の考えを合わせて少し

書いていきたいと思えます。

花は（人間は）、誰のためでもなく、自分のためでもなく、ただ自然に咲く、季節と共に咲く、ということ。三宅先生は書かれていました。ここの「咲く」というのは、もちろん「夢が叶う」とか「成功する」と考えることもできますが、私はもともと広く「生きる」とか「在る」と捉え直して読みました。そして、誰のためでもなく自分のためですらなく、ただ自然に自分（他人は）存在するんだ、と考えられたら、とても自由だと思えました。

私はつい「誰かのために」ならなければ、と考えてしまいます。それで時々とても苦しくなります。世の中には困っている人がたくさんいることを知っていたながら、今の私は仕事もせず（事情があったので会社は三ヶ月で辞めました）、文献と辞書と事典と PC に向かい合っている生活で

す。今はまだ修業期間だ、と思っても、自分の能力に疑問を感じる時や人々の間にある暴力に直面した時、こんなことをしている場合なのか、と考えます。この思考が止まらなくなると、少しの贅沢をすることさえ罪に思えて、美味しいご飯が罪悪感の味になってしまう始末です。

ただ本当に、昨年の私にとつて、哲学・倫理学を始めることは自然でした。季節と共に、という感じで様々な条件がそろい、時期がきたという自覚があるほどでした。三宅先生からは、まさにこの自然の流れが、自分で思っている以上に大切にすべきことだろうと気づかされたのです。

ただ大切であると気づいたところで、私が進んだ道が誰かのため、あるいは自分のためになることは関係がないのかもしれない。それでも結果として、自然の流れと今ある環境を最大限活かすことができたら、それがいつか誰かのためになり、自分のためにもなるということ。期待はできると思います。というのは、まさに自然の動植物の在り方がそうだからで

す。途中で枯れることもありましようが、自然だと考えるとそれもそれでいいんだ、と思えるような気さえします。

ところで大学では、自由は「くからの自由」と「くへの自由」と分けて考えられることがあります。上に書いたことに当てはめると、「誰かのために」思考からの自由、そして「自然な在り方」への自由と言うことができるかもしれません。今でもそうなりがちですが、特に高校生の時の私はいろいろなことから逃れる自由（「くからの自由」）ばかり考えていました。でも大学で積極的な自由（「くへの自由」）を知り、私は少しだけ余裕をもつことができるようになったように思います。

少々達観した意見を偉そうに書いてしまいました。欲求やら反省する能力やらナンヤカヤ、人間特有の意志が自分にある以上、実際に花のように生きることにはできないでしょう。それに、意志をもつ人間が花のように生きるなんて、それを不自然であるとも考えられます。

この場でこれと言った主張はありません。ですが、宮城

野を卒業した後も「自由」とその周辺にまつわるいろいろなことについて考え続けている卒業生がいるということ、「たんぽぽ」を通して自分今でも育ててくれている先生方への感謝の気持ちをお伝えしたいと思って、今日は書きました。

最後になりますが、私は東北大学の美術史(学部)と就職活動、退職の経験を少しずつ持っています。そして現在は京都大学院(倫理学)で I・カントの「純粋理性批判」と政治哲学(と W・ジェームズの『多元的宇宙論』)について勉強しています。これまでの経験から、同じ名前の専修・研究室でも大学ごとにスタイル・内容が違うこと、大学院入試には特殊なコツがあること、それから会社の言うこと全てが信用できるわけではない(笑)ということを知りました。もし上の点で聞きたいことがあれば遠慮なくご連絡ください。読んでくださってありがとうございます。読んでも構いません。

＜連絡先・6 回生 上山愛子さん＞
aiko82.sora@gmail.com



私の大学生活

11 回生 鈴木 菜央さん

山形大学1年の鈴木菜央
といいます。宮城野高校11
回生です。今私が大学でど
んなことをしているかにつ
いて少し紹介したいと思います。
私は大学の異文化交流
コースというところに所属
しているのですが、同じ
コースの先輩や友達とK I
R A キッズクラブという
二ヶ月に一回行なわれる子
供向けのセミナーのお手伝
いをしています。このセミ
ナーは山形県にある河北町

というところで、外国人の
方と子どもたちが色々なか
たちで交流するという内容
のものです。実際何をす
るかという、外国の文化に
まつわる遊びをしたり、海
外の料理(主にアジアの国)
を食べてみたり、というこ
とをします。参加する子ど
もたちは大体が小学生で、
外国人の方は主にALITの
先生として日本に来てい
る人たちです。私は子どもが
好きで、自分自身外国にも
興味があったので、先輩に
さそわれ参加させてもら
うようになりました。私たち
大学生は、セミナーのお手
伝いということで活動の準
備や、また実際に遊びを企
画してやってみたりとい
うことをしています。去年の
11月のセミナーでは、なん
と私が出した遊びの案が通
り、それを実際に行なっ
て成功しました。国旗をたく
さん用意してそれを使っ
て英語で色おにをするとい
う単純なものでしたが、子ど
もたちにはとても楽しんで
もらえたようでした。

また半年しか経っていな
いのですが、このK I R A
キッズクラブでは色々なこ
とを学ぶことが出来ました。
実際にめったに食べるこ
の出来ない外国の料理やお
菓子をいただいたり、どの
ように活動したら子ども
たちは外国について学ぶと
同時に楽しめるかというこ
とをたくさん考えたり、ま
た直接外国人の方と話すこ
ともできたり先輩とも親し
くなれたり、様々な人との
コミュニケーションの仕方
についても多くのことを知
ることができたと思います。
今年、来年あたりは私も
さらにキッズクラブのリー
ダーとしてがんばって活動
をしていきたいと思ってい
ます!

大学生活で 思うこと

11 回生 笠原 優さん

私が宮城野を卒
業して、約一年が
経とうとしていま
す。この頃センタ
ー入試、なんて言葉
を聞く受験期が
思い出され、一年
の長さを身にしみ
て感じています。
私は県外の大学に
通っているのです
が、心配だった一
人暮らしにも慣れ、今では
毎日楽しく満喫していま
す。

私は音楽系のサークル活
動、またバイトもしていま
すが、その日々の生活の中
で学ぶことはたくさんあり
ます。サークルでは、活動
する楽しさに限らず、サー
クルを作り上げる大変さや
仲間の大切さなどを改めて
強く感じています。週三で
活動し、イベントも多いた
め、何かと仲間やその音楽
自体から影響を受けること
は多く、いいサークルに
入ったなあと思っています。
今している喫茶店のバイト
は、接客業のため様々な年
代の方と話すことが多く、
緊張はしますが、やはり働

くことは大きな社会勉強に
なるものだと感じます。と
きどき年配の常連のお客さ
んと話すと、自分の知識の
なさを痛感しますが、逆に
教えていただいて知識の補
充をしたりします。やはり
サークルでもバイトでも、
人とのコミュニケーション
の中で得るものは大きいも
のです。
最後に、宮城野で生活し
ていると、よく主体性の重
要さを感じることがありま
した。私は宮城野を卒業し、
大学生になった今でもそれ
を強く感じています。大学
は、勉強に限らず様々な面
で、自ら興味をもって取り
組めばたくさんものものを学
習でき、得ることができ
場所です。自分が後々社会
に出ていくことを考えると、
好きなことを思いっきりし、
挑戦できる最後のチャンス
なのではとも思います。私
は宮城野を卒業しましたが、
あの三年間で自分ができた
ことはまだまだあったよう
に思うことがあります。大
学卒業後に後悔しないよう
に、今は様々なことに挑戦
しようとしている最中です。



出会い

宮城県多賀城高等学校

早坂 昌樹 先生

十二年前の四月、当時の宮城野では春休みの最終日に課題テストがあり、新任式が終わっていないにもかかわらず試験監督を担当、そこで全く面識のない生徒諸君と対面したのがみなさんとの最初の出会いです。こうして始まった宮城野での生活、田子に住んでいた私は、毎朝、現宮城県知事邸の前を通り徒歩で通勤していました。

それから十年、生徒のみなさん、先生方、さまざまな出会いがありました。例えば、先生方というと、妻の高校時代の恩師(美術)、中学・高校と六年間も同じ

学校に通いながら全く面識がなかった同級生(美術)、大学時代の宮城県人会で酔いつぶれた私に対して望ましい飲酒のあり方をご指導してくださった先輩(体育)、私の高校時代の恩師(数学)、保育所のお迎えでときどき見かけていたお父さん(国語)といった具合です。

また、十周年記念式典では祝賀会担当として参加、大江健三郎氏の講演を間近で拝聴できるとは思ってもみませんでした。

「宮城野度テスト」があれば間違いなく高得点という状態で多賀城高校に転勤、何と野球部の顧問(部長)を拝命し、現在二年目になります。「スポーツは健康に悪い」などと述べていた私を野球部長に充てるとは、まさに勇氣ある大胆な校内人事といったところです。それでも、夏は上空にオゾンホールがあるかもしれない炎天下の球場で裏方作業に従事するなど、それなり日焼けもするようになりました。高校野球関係で知り合いは皆無であると思っていたところ、宮城野の同窓生が二人も野球部顧問として活躍しているのです。これは頼もしい限りです。

今後ともさまざまな分野で同窓生諸氏の活躍を目にすること

になるでしょう。そして、いつの日か、開校記念式典で宮城野の同窓生による講演が行われること

宮城野を離れて2年が過ぎようとしているが、宮城野は他にない良さを持った学校だったとしみじみ思う。部活がない、生徒会(生徒会執行部?)がないとか、その当時は、「ない」ことが特徴であり良さであるような言い方をする生徒が多かったが、今はどうだろうか。他の学校で

宮城野について 思うこと

宮城県仙台第三高等学校

千葉美智雄 先生



を期待しております。私も陰ながら「宮城野サポーター」として応援していきたいと思えます。

重要な課外活動が「ない」こと、それだけで直接的に良さが「ある」ことにはならない。「ない」かどうか、既存のものではない何かが宮城野には「ある」のか、思考停止に陥ることなく考えてほしいとも思っていた。

宮城野に着任した当時は、生徒会が存在しなかった。生徒会がない、という特徴について、生徒の気分は大きく二つに割れていたように思う。生徒会がないのに生徒企画行事を運営できる状況を宮城野の良さとする声もあった。一方で、集団としての意思決定の手続きがないために、様々な意見が対立して、結局ボランティアが吊るし上げられる場面もあり(悪意があつたわけではなく、みんな一生懸命だったからだけ)、生徒会長をトップにした生徒会執行部は必要ないが、生徒集団として意思決定するときのきまりは必要という声もあった。

自分の意見が通らないこともあるだろう。本意でも、十分な議論の末に出た結論なら仕方ないとも思えよう。しかし、意見

を黙殺されたり、意見を表明する場さえ与えられずに物事が決まってしまうとすれば、あまりにやるせない。気持ちよく生徒企画行事を盛り上げるためには、意思決定の枠組みが必要だったのである。

規則をつくり、それで縛っていくのは宮城野らしくないという声もあった。「きまりごと」なんだから」と形式を押し付けることになれば、確かに、らしくない。宮城野らしさは、私が思うに、物事を本質的に考えることができる点にあると思う。開校当初、生徒心得をつくらなかったのは、規則だからと思考停止して型どおりの反応をするのではなく、規則がないからどうすべきかいちいち考えなさいということをや求めているのだと理解している。周りの人と同じにして安心するなんて個性がない。周りの人とは違うことをするのが個性的。などというのが普通の認識かもしれないが、結局どちらも価値判断の基準が周りの人にあるという点で共通しており、確固たる自己がない。あるべき姿を追求したら他の学校と違ったものになった、というような、真に個性的な学校であつてほしいと思う。

宮城野高校卒業生の皆様へのお知らせ

同窓会役員募集について

早いもので宮城野高校同窓会が発足して10年以上が経過しました。懐かしい学び舎を巣立っていった同窓生、教職員の人々の数は4000人近くに上ります。宮城野高校という共通の地盤を持つている人々が、今後益々増えていくのは大変喜ばしいことと思えます。さてこうした

流れを見据え私たちは、将来的に同窓会を現状の学生中心の運営から社会人の方々を中心としたものへと変えていくことを検討しております。社会的にも経済的にも安定した方々による組織運営は同窓会の発展を促進するものです。各回生間のネットワーク構築という観点から見てもそうした方々の参加は、いずれ不可欠のものとなるのではないのでしょうか。

宮城野高校のために力を貸してくださる方を募集しています。ご連絡は宮城野高校か同窓会まで。

土曜ゼミナールに 来てみませんか？

授業で聞けない社会人のお話、普段の先生とは違う顔、楽しい実技や校外学習、皆さんは土曜ゼミナールにどんな思い出がありますか。現在も

宮城野高校で行われているこの土曜ゼミですが、実は前回・前々回と宮城野の卒業生が講師として参加しています。本年度行われた土曜ゼミには、宮城野高校7回生の山本一輝さんが、「似顔絵」文化論の講師を務めてくれました。在校生と同

窓生をつなぐ貴重な機会が生まれたことは、同窓会としても嬉しい限りです。こうした動きをきっかけに在校生との交流が活発化していけばと思います。皆さんもご自身の技術や経験、宮城野卒業以降の歩みなどを直接在校生に伝えてみませんか？ 宮城野高校は、常に在校生と同窓生の新しい関係を模索しています。興味のある方はぜひ同窓会までご連絡ください！

平成19年度 宮城県宮城野高等学校同窓会 決算書

(単位:円)

収支対照	収入額	支出額	純額	備 考
	9,453,908	970,837	8,483,071	

収入内訳

項 目	予算額	決算額	増 減	備 考
会 費	1,506,000	1,506,000	0	更1,890*837
人 会 金	0	0	0	
雑 感 金	7,947,908	7,947,308	0	
寄 附 金	0	0	0	
合 計	9,453,908	9,453,308	0	

支出内訳

項 目	予算額	決算額	増 減	備 考
1 総 務 費	610,000	41,195	-568,805	
(1) 会議費	30,000	2,161	-27,839	
(2) 雑 費	100,000	39,034	-60,966	平成18年度未処分(平成19年度分)
(3) 印刷費	350,000	0	350,000	
(4) 通信費	70,000	0	-70,000	
(5) 郵便費	50,000	0	-50,000	
(6) 雑 費	10,000	0	-10,000	
2 学 業 費	8,682,908	929,642	-7,753,266	
(1) 総 会 費	0	0	0	
(2) 会 報 発 行 費	650,000	679,742	129,742	会報印刷用紙(平成18年度未処分(平成19年度分))
(3) 名 簿 編 集 費	0	0	0	
(4) 支 部 助 成 費	100,000	0	-100,000	
(5) 卒 業 式 補 助 費	300,000	249,900	-50,100	卒業生誌(ポスター)
(6) 在 校 生 支 援 費	500,000	0	-500,000	
(7) 卒 業 生 会 画 支 援 費	200,000	0	-200,000	
(8) W e b サ イ ト 費	100,000	0	-100,000	
(9) 植 立 費	6,912,908	0	-6,912,908	
3 予 備 費	181,000	0	-181,000	
合 計	9,453,908	970,837	-8,483,071	

監査の結果、帳簿等(別)に請求額ともに、正務の決算に処理されていることを認めます。

平成20年 6 月 25 日

宮城県宮城野高等学校 同窓会

監 事 金内 康祐
監 事 上野 尚
松原 桃子
齋 藤 隆

編集後記

今年も「たんぽぽ」が無事完成し、嬉しく思います。作成に協力してくださった皆様、本当にありがとうございます。

記事を書いてくださった皆様ありがとうございました。皆さんぜひ隔々まで読んでください！ (西塚)

ご協力頂いた皆様に感謝しています。ご意見ご感想などお待ちしております。(片平)

編集・発行

宮城県宮城野高等学校同窓会事務局
〒983-0021 仙台市宮城野区田子2-36-1
ホームページ
<http://miyagino-highschool.com/entrance.html>
E-mail info@miyaginohighschool.com
《第12号》 2009年3月1日発行
題字：田代ひとみ先生